

令和7年度 法人事業計画

令和6年度から7年度へ

◇第二次中期計画策定会議継続中

令和7年度～11年度の法人5か年計画を策定中です。高齢・少子化の奔流の中、福祉への需要率は拡大しますが規模は減少していきます。法人運営の柱の一つである安心・安全な福祉サービスの質の向上や法人経営の適切な事業規模を明確にして、利害関係者のニーズに耐え得るものを立案してPDCAサイクルを回していきたいと考えています。

◇就労移行支援事業エム・ワークス事業終了

高い就職率と定着率で利用者と法人運営に大きな成果をもたらした事業でしたが、外的要因が大きく、利用者減少に伴う収支差額のマイナスが下げ止まらずに令和7年1月末で終了しました。15年間積み上げた大切なノウハウを就職希望の法人利用者に還元すべく、法人事業所横断プロジェクト『ジョブラボ』を立ち上げて支援していきます。現在も検討会議を継続中です。

◇職員研修実施の拡大や個別面談の充実

法人運営の質の向上と永続性の担保は人的資本への注力に尽きます。全体研修会を年2回から4回に拡大しました、今後も改善を重ねていきます。外部研修参加費助成も継続中、受講情報共有に努めます。今後は、活用頻度の個人差解消が課題となります。職員面談では理念の共有と実現を目的に、「基本方針」と「職員としての姿勢」に照らし合わせた振り返りを行いました。継続していきます。

◇咲くら工房買取り交渉継続中

オーナーからの提案もあり、賃貸借契約をしている現地の土地と建物の買取り交渉を進めています。法人の不動産は現在本部施設建物のみであり、永続的に事業を継続するためにも自前の土地は必要です。大きな支出となりますが実現したいと考えます。買取りが実現すれば将来的には建替えも検討することになります。

◇本部施設大規模修繕完了、御影倶楽部等環境整備継続中

竣工20年を節目に本部施設の大規模修繕を単年度の資金収支差額の中で完了することが出来ました。令和5年度は咲くら工房・あんず・ひらめの家の改修等の工事を後援会からのご寄附で実施しました。今後は御影倶楽部等の改修(元利用者家族ご寄附「安廣基金」の活用)にも取り組み、利用者の施設満足度向上に努めます。

◇地域に開放する福祉講演会の実施、継続

20周年企画として、去年は京都府立大学の横道氏をお招きして『他者と出会って勇気づけられる』をテーマに講演会を開催しました。今後は法人と後援会の共催で毎年開催としていきます。今年は大阪大学の村上氏を講師に『ケアと生きるスペース』がテーマです。福祉法人としての地域への関りの在り方を深めていきます。

具体的な行動計画

国の施策も福祉サービスも益々「選択と集中」が進みます、選択されなければ淘汰されます。国の方向性では効率化を目的とした法人連携や合併が取り沙汰されていますが、木の芽福祉会は全職員が全利用者のケースを議論し続ける法人でありたいと思って行動しています。その姿勢を共有し続ける為に第二次中期計画の柱を4項目に絞り込み、それぞれに重点課題を以下の通り決めました。

○理念の実践と人材育成

- ・法人の新しい理念を共有し、実践する。
- ・キャリアプランを策定して実行する。
- ・全職員が学び、成長する。

○地域で展開する事業の明確化

- ・事業の魅力を確認し、事業所間で連携する。
- ・拠点の在り方を検討する。

○咲くら工房プロジェクト

- ・買い取りを進める。
- ・プロジェクトを始動する。

○BCPの強化とリスク管理

- ・より実践的なBCPに改定する。
- ・BCPに基づいた訓練を繰り返す。
- ・リスク管理諸規程を見直す。

この重点課題を更に細分化し、到達目標と時期を定めて担当者を配置して見える化します。丁寧に進めていきますがスピード感も求められると考えています。

以上